

## この章の要点

- ◆ 乳がん体験者の悩みや負担を世代別にみていくと、40歳未満では、「家族・周囲の人との関係」は、診断時は第2位、診断時以降現在までは第3位で、悩みや負担のなかでの割合は時期にかかわらず高い傾向にある。(P.94)
- ◆ 悩みや負担の具体的な内容を細分類項目でみていくと、「[家族（親、子ども）にがんのことを話すかどうか、どのように話すか]という[家族への告知]の問題、[子ども]に関する悩みや負担の2つの特徴がみられる。(P.94)
- ◆ 40歳未満では、「[子どもに関する気がかり]」が上位を占め、子どもへの告知の問題、子どもの世話の問題、今後の子どもへの気がかりなどがあがっている(p.95)
- ◆ 40-65歳未満では、第1位は、「親（親戚を含む）」への告知で、「家族に負担をかける」という悩みも上位に入っている。(p.95)

(1) 世代別 悩みや負担：大分類 上位 5 位

世代別に、診断時と診断時以降現在のまでの時期の乳がん体験者の悩みや負担を大分類ごとの上位 5 位を整理したのが、表 11-1、表 11-2 である。

大分類「家族・周囲の人との関係」は、どの世代でも、また、診断時と診断時以降すべての時期で、上位 5 位以内に入っている。なかでも、40 歳未満では、診断時は、第 2 位（59 名：25.4%）、診断時以降は第 3 位（72 名：17.5%）で、悩みや負担のなかでの割合が時期にかかわらず高い傾向にある。

表 11-1 乳がん体験者：世代別悩みや負担 上位 5 位（診断時）

	40 歳未満	40-65 歳未満	65 歳以上
1	不安などの心の問題	不安などの心の問題	不安などの心の問題
2	家族・周囲の人との関係	家族・周囲の人との関係	診断・治療
3	就労・経済的負担	就労・経済的負担	家族・周囲の人との関係
4	診断・治療	診断・治療	就労・経済的負担
5	生き方・生きがい・価値観	生き方・生きがい・価値観	外来

表 11-2 乳がん体験者：世代別悩みや負担 上位 5 位（診断時以降）

	40 歳未満	40-65 歳未満	65 歳以上
1	症状・副作用・後遺症	症状・副作用・後遺症	症状・副作用・後遺症
2	不安など心の問題	不安など心の問題	不安など心の問題
3	家族・周囲の人との関係	診断・治療	診断・治療
4	就労・経済的負担	就労・経済的負担	家族・周囲の人との関係
5	診断・治療	家族・周囲の人との関係	就労・経済的負担

(2) 悩みや負担の具体的内容：細分類 上位 5 位

「家族・周囲の人との関係」の悩みや負担の内容を具体的にみていくために、細分類別に集計した。

a) 乳がん体験者全体：細分類 上位 5 位

細分類項目で上位の具体的な悩みや負担の項目をみていくと、家族（親、子ども）にがんのことを話すかどうか、話すとしたらどのように話すかという[家族への告知]、[子ども]に関する悩みや負担の 2 つの特徴がみられている。

表 11-3 家族・周囲の人との関係：細分類項目 上位 5 位

順位	細分類項目
1	親（親戚も含む）への告知
2	子どもへの告知
3	今後の子どもに関する気がかり
4	子どもの世話が十分できない
5	家族に負担をかける
5	高校生以下の子どもに関する気がかり

b) 乳がん体験者 世代別： 細分類 上位 5 位

世代別に細分類の上位 5 位を整理した。ただし、65 歳以上は、細分類別の件数が 2 件と 1 件しかないため、ここでは、40 歳未満と 40-65 歳未満の 2 つの世代を比較した。

40 歳未満では、子どもに関する気がかりが上位を占め、子どもへの告知の問題、子どもの世話の問題、今後の子どもへの気がかりなどがあがっている。40-65 歳未満では、第 1 位は、親などへの告知で、また家族に負担をかけるという気がかりなどが上位に入っている。

表 11-4 世代別 家族・周囲の人との関係： 細分類 上位 5 位

順位	40 歳未満	40-65 歳未満
1	子どもの世話が十分できない	親（親戚も含む）への告知
2	高校生以下の子供に対する気がかり	子どもへの告知
3	今後の子どもに関する気がかり	今後の子どもに関する気がかり
4	親（親戚も含む）への告知	家族に負担をかける
5	残される子どもが気がかり	子どもの世話が十分できない
5	子どもへの告知	

(3) 家族への告知（親や他親戚などへの告知、子どもへの告知）の事例

以前は、本人にがんであることを話すかどうかということがメディア等でも話題にあがっていたが、現在は多くの場合、本人にがんという診断、病状や治療方針などが説明される。説明の場では、本人にとってキーパーソン（本人の関係者の中で、意思決定や問題解決などにおいて中心的な人）等となる人と同席していることが多い。

しかし、それ以外の家族に伝えるかどうか、伝えるとしたら、どのようなタイミングで、どのような伝え方をするのかなど、がん体験者の気がかりや負担感は大きいものがある。また、女性乳がん体験者の場合、家庭内では生活面だけではなく心理的な面でも中心的な立場にいる場合も多い。そのため、伝えることでの伝えた相手への心理的な負担を思いやりためらう場合もあると考えられる。

家族に伝えるかどうかや伝え方などへの気がかりや負担感は、乳がん体験者だけではなく、さまざまながん体験者においても起こりうることである。子どもへの告知に関しては、書籍や資料なども少し出ているが、親や兄弟、遠方にいる家族や親戚、家族以外でも親しい友人や知人、職場関係や近所づきあいのある人々に何をどこまで伝えるかなど一つの正解やノウハウがあるわけではない。事例集や相談窓口の情報提供、次回外来でのフォローなどの支援も必要と考える。

表 11-5 家族への告知の事例

親（親戚も含む）への告知
◆ 自分の両親に乳がんになってしまったと伝えることが苦しかった。
◆ 両親に孫を産めないことや病気で心配かけることなどの報告をすることに悩んだ。
◆ 自分自身にショックやつらさはなかったが、親に伝え、どうなだめるかの方がつらかった。
◆ 年老いた親に言うべきかどうか。同居しているが、父親の具合も悪かったので、手術までは黙っていたかった。
◆ 介護していた親に自分のがん告知を説明すること。

子どもへの告知
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 子ども達が受験の年だったので、伝えようかどうか不安だった。</li> <li>◆ 当時中学生と高校生の子どもがいたが、治療が外見に出てしまうので病気の伝え方をどうするか。</li> <li>◆ 子供がまだ小さいので、話をするのがつらかった。</li> <li>◆ 抗がん剤治療をするにあたり、子どもにがんであることを伝えるタイミングと、子どもの心理的負担について悩んだ。</li> <li>◆ 子どもがもう少し大きくなっていろいろわかるようになってきたとき、病気のことをどう話すか。</li> </ul>

#### (4) 子どもに関する気がかりの事例

乳がん体験者は若年の場合もあり、子どもがまだ幼かったり、思春期の難しい時期の場合だったりというときもある。女性乳がん患者の場合、母親としての役割を強く意識して自分を責めたり、子どもにどのように接したらよいか戸惑うことも起こりうる。そこで、いくつかの子どもに関する気がかりを参考として示した。

診断時や治療開始前、治療中など、学校のことや育児や身の回りの世話などの子どもに関する悩みや負担の有無に関するアセスメントや相談窓口の情報提供などが必要と考える。

表 11-6 子どもに関する気がかりの事例

今後の子どもに関する気がかり
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 3人いる未成年の子どもの世話、子どもにとって大切な年頃をどう乗り切るか、不安がいっぱいだった。</li> <li>◆ まずは子どものこと、成人するまで見届けられるのか、不安になった。</li> <li>◆ 子どもが未成年のため、今後の教育のことなど将来に対する不安。</li> <li>◆ 幼児と乳児がおり、乳児は完全母乳であったため、乳がんと診断されて断乳や今後の子育てについて不安だった。自分は治療さえすればいいが、とにかく子どもたちの生活に影響なく進めるにはどうすればいいのか、治療方針がわかるまで不安だった。</li> <li>◆ 子どもたちの生活や将来について悩んだ。</li> </ul>
子どもの世話が十分できない
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 子どもたちが小さく、自分が通院や入院をすると面倒がみられなくなってしまうこと。</li> <li>◆ 子どもが小さかったので、通院、治療中の子どもの世話のこと。</li> <li>◆ 子どもが受験中なのに集中できる環境を作ってやれないことが不安だった。</li> <li>◆ 小中学校の子どもたちを学校へ行かせる身支度が、父親で行き届くかどうか。</li> <li>◆ 退院後は手術後の痛み、体の不都合さ、抱っこや入浴など子どもとの接し方が変わったこと。</li> </ul>

(子どもに関する気がかりの事例 続き)

高校生以下の子どもに関する気がかり
<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 一番下の子がまだ小さく、かつ上の子の高校受験と重なったため、抗がん剤治療による体力低下や入院で家を留守にするのが不安だった。</li><li>◆ 子どもも何かを感じとってぐずったり、トイレを教えなくなったりと世話がよけたいへんになったので、子どもの心のケアに悩んでいる。</li><li>◆ 初めてがんの告知を受けたときは、子どもたちが小学生のためそちらのいろいろなことが心配だった。</li><li>◆ 子どもが高校生と中学生だったので、家をどのくらい留守にするのか、家事、子どもの精神的な面での不安。</li><li>◆ ちょうど子どもの高校受験のときもあり、今後がわからず悩んだ。</li></ul>
子どもの心身への影響
<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 息子が大学受験だったので、影響が心配だった。</li><li>◆ 独立して都会にいる子どもにいつ何と報告したらいいか、子どもが強いショックを受けるのではないかと、毎日そればかり考えていた。</li><li>◆ 子ども心のケアのことで悩んだ。</li><li>◆ 下の子が青春真っただ中の楽しい時期に、私の病気の苦しみにつき合わせたこと。</li><li>◆ 下の子とお風呂に一緒に入らなければならず怖い思いをさせてしまうこと。</li></ul>
子どもの行事に参加できない
<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 子どもの学校行事への参加や当番などをどうするか。</li><li>◆ 子供の学校のことが気がかりだった。</li><li>◆ 髪の毛が部分的に抜けていき、ウィッグの購入に迷ってしまった。結局購入せずにいるが、髪の毛の量が減り、白髪も染められず、子どもの学校行事への参加がとても嫌だった。</li></ul>
子どもに遺伝するのではないかと
<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 遺伝性ではないか(私の母も乳がん)。小さな子どものこと、遺伝性ではないかということが気がかりだった。</li><li>◆ 子供への遺伝。娘にがんが遺伝しないか。</li><li>◆ 子供に遺伝してないだろうか。</li></ul>

注) 子どもに関する 細分類項目の一部を事例として示した。